

食品産業
もったいない大賞
審査委員会
委員長賞

応募名称

廃棄うどんをバイオガス発電し、肥料から小麦を作り、うどんを再生するプロジェクト

会社名、事業場名

うどんまるごと循環コンソーシアム

香川県高松市 / <http://www.udon0510.com/>

■ 具体的な取組内容 ■

うどん店で茹でて時間が経ったうどんは、コシがなくなり致し方なく廃棄、また、製麺工場の製造工程でラインから落ちて製品に適さないうどんは、有料で焼却処分されています。

こういった問題を解決するために、香川県下の企業、NPO、行政、教育機関、その他兼業農家や環境教育の専門家が手を組み、コンソーシアムを立ち上げ、「うどんをまるごと循環させる!」という基本コンセプトの元、プロジェクトを実施しています。以下1～3がプロジェクトの主軸となる活動です。

1. 廃棄されるうどんを、(株)ちよだ製作所が開発したプラントでメタンガスをつくり「うどん発電」し売電、その残渣から「うどん液肥」を生成
2. うどん液肥を小麦畑に散布。栽培された小麦を収穫し、その小麦を使って「うどんまるごとエコツアー」を開催し、参加者が手打ちうどん体験などでうどんを作り試食
3. このような仕組みを知ってもらう、食品ロス問題など自分の暮らしを見直してもらうため環境学習や啓発活動を実施

循環のしくみは以下の図の通りです。



- ① 廃棄うどんの回収、分別、運搬する
- ② 廃棄うどんを発酵させバイオガスなどを生成する
- ③ バイオガス発電等を行い、FIT を利用して売電するとともに、余熱を発酵に活用する
- ④ バイオガス等を作成する過程で出た「残渣」から、肥料「うどん液肥」を作る
- ⑤ うどん液肥を小麦畑などに撒いて小麦を育てる
- ⑥ うどん液肥を使って収穫した小麦からうどんを作る

■ 講評 ■

うどん残渣から、うどん発電を行うためのバイオガスや小麦栽培の肥料等を生み出し、循環利用するという県の特産品を用いた取組。うどん残渣からバイオガスを作るとともに、処理後の消化液も液肥として利用している点が評価された。今後の継続や製麺業者との連携が期待される。